

# 横浜みどりアップ計画 [2019-2023] を策定しました！

横浜みどりアップ計画（計画期間：平成26～30年度）に引き続き、2019年度以降に重点的に取り組む「横浜みどりアップ計画 [2019-2023]」を策定しましたので、その概要をご紹介します。

計画の理念 **みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜**

## 5か年の目標

- 1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します
- 2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます
- 3 市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します

### 計画の柱① 市民とともに次世代につなぐ森を育む



- 5か年の主な取組
- 300haの樹林地を新規指定
  - 指定樹林地における維持管理の支援
  - 森に関わるきっかけとなるイベントや広報を実施

### 計画の柱② 市民が身近に農を感じる場をつくる



- 5か年の主な取組
- 水田の継続的な保全を支援
  - 様々な農園を開設するなど農とふれあう機会を提供
  - 市民や企業と連携した地産地消の推進

### 計画の柱③ 市民が実感できる緑や花をつくる



- 5か年の主な取組
- 地域で愛されている並木を再生
  - 地域緑のまちづくりや地域に根差した各区での取組を推進
  - 緑や花による魅力ある空間づくりを集中的に展開

効果的な広報の展開

## 横浜みどりアップ計画 とは？

みどりアップ2019

検索

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています（個人市民税の均等割に年間900円、法人市民税の年間均等割額の9%相当額を上乗せ）。計画書は、環境創造局ホームページ、区役所広報相談係や市庁舎1階市民情報センター、環境創造局政策課で閲覧できます。

## ガーデンネックレス横浜 2019 ～今年新たに“横浜ローズウィーク”を開催～

里山ガーデンやみなとエリアとともに、市内各所を、パンジー、サクラ、チューリップ、バラといった春の花々で色鮮やかに彩る「ガーデンネックレス横浜2019」を3月23日から開催します。

さらにこの春は、開港以来、横浜市民に親しまれてきたバラを主役にした新たなイベント「横浜ローズウィーク」を横浜開港月間と同時期に開催し、開港160周年の横浜を彩ります。



© ITOON/GN

### 1 里山ガーデン 3月23日(土)～5月6日(月・休) 2 みなとエリア 3月23日(土)～6月2日(日)

里山ガーデンの市内最大級 10,000 m<sup>2</sup>の大花壇では、JA横浜の協力により市内産の草花を全体の8割まで増やし、期間限定で公開します。

この春は、5月上旬から6月上旬に開花するよう、開花調整したユリが加わり、花のリレーがさらに充実！サクラ(3月下旬～4月上旬)、チューリップ(4月上旬～4月中旬)、ユリ(5月上旬～6月上旬)、バラ(5月中旬～5月下旬)

このニュースレターは横浜みどりアップ計画の「市民とともに次世代につなぐ森を育む」取組として発行しています

◇次号NO.101は平成31年6月末頃の発行予定です。◇

横浜みどりアップ計画

平成31年3月発行

# よこはまの森 ニュースレター

横浜市環境創造局みどりアップ推進課 〒231-0017 横浜市中区港町1-1 tel 045-671-2624 fax 045-224-6627 No.100

## 春を代表する 森の恵み

### タケノコ

スーパーマーケットや商店で、タケノコを目にする季節になりましたね。今や店頭で買う機会の方が多かもしれませんが、約半世紀前では、横浜でも農家の屋敷の裏にある雑木林から入手する方も多く、タケノコは竹林管理の産物として今よりずっと身近な存在でした。今回は、このタケノコから、横浜の森の事情、管理方法、そして、竹の活用例を見てみたいと思います。

## タケノコから森づくり活動へ

これからの季節、市内の森づくり活動で、「タケノコ堀りという名の竹林管理」が行われます。竹林の恵みを活用するためには、タケノコ堀り以外の活動も必要ですが、まずはきっかけとして、お近くの森づくり活動でタケノコ堀りを体験してみたいはいかがでしょうか。

横浜の森づくり活動団体を紹介する冊子を作成しました。竹林の管理をしている団体も紹介していますので、ぜひご覧ください。冊子は、横浜市のホームページに掲載しています。

横浜市 森づくり活動団体紹介

検索

## 竹について

縄文時代の遺跡から竹を素材としたかご籠が発掘され、奈良時代の長岡京で排水溝として使われていた真竹が出土しているなど、竹は古くから、日本人に親しまれてきました。

竹は成長が早く、木に比べて柔らかく加工しやすいため食用だけでなく、箆や箒など、さまざまな用途に活用できる有用な植物として、雑木林の隣などに植林されてきました。

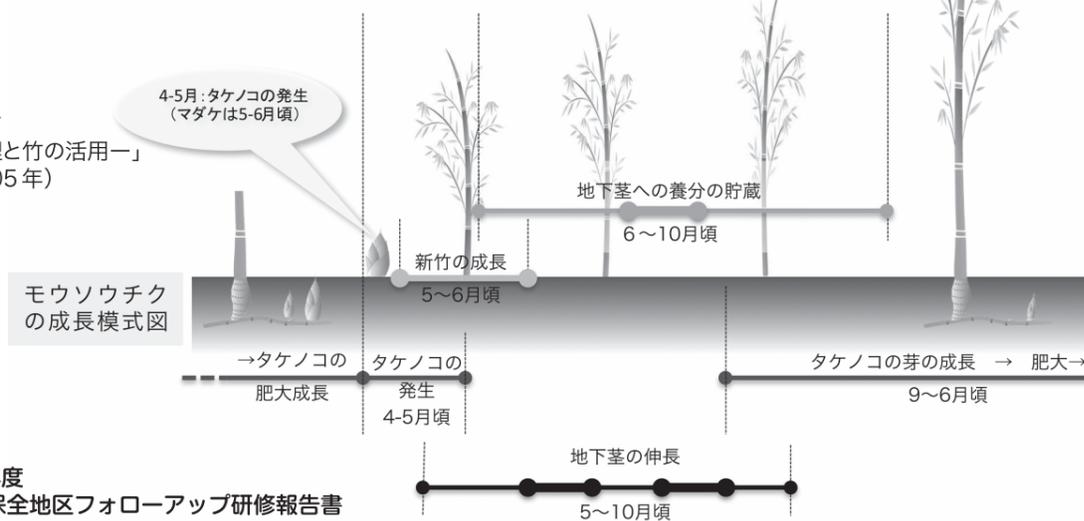
現在私たちが食用としているもののほとんどは、「孟宗竹(もうそうちく)」という中国原産の竹で、江戸時代に中国から伝来したものです。市内では、主に孟宗竹と真竹(まだけ)の竹林を見ることができます。



孟宗竹のタケノコ収穫時期 3月中旬から5月

参考文献：

「タケと竹を活かす 一竹の生態・管理と竹の活用」  
内村悦三著 (2005年)



出典：平成29年度 名瀬北特別緑地保全地区フォローアップ研修報告書

# 高まる、竹林管理の必要性

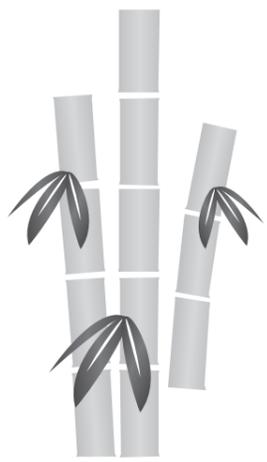
私たちの生活に身近な竹でしたが、中国産の安いタケノコや、竹製品の代替としてプラスチック製品が、市場に出回るようになると、竹林に人の手が入らなくなりました。

管理放棄された竹林は、隣にあった雑木林を駆逐する勢いでどんどん地下茎を伸ばし、その面積を拡大していきました。

竹は成長期に大量の水を吸い上げるため、周りの樹林を弱らせます。また、竹の根の深さは、地下 30センチ程度しかなく、竹林が拡大した斜面は豪雨のときなど、根の下に水がまわり、崩れやすく危険な状態になってしまいます。

市内の各樹林地では、横浜みどりアップ計画<sup>\*</sup>に基づき、順次保安全管理計画や管理計画などを作成し、竹林を残す場合は安全に管理できる範囲を決め、それ以外の斜面などは、樹種転換を進めるなどの対策を進めています。

また、竹林管理を行う団体に対しては、専門家の派遣を行い、具体的な竹林管理の手法を学んでいただいています。 ※詳しくは4面参照下さい。



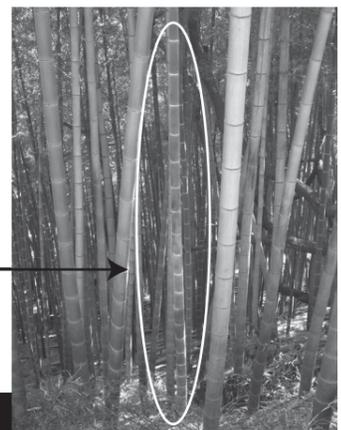
## 竹林の管理方法

### 専門家からのアドバイス

獅子ヶ谷市民の森において、かのご環境プロデュース(株)の神保賢一路先生から、竹林管理の考え方について、お話を伺う機会がありました。ここでは、先生のお話の中から、竹林管理に役立つコツをお伝えします。

#### 間伐について

竹林の管理では、ほどよい密度となるよう、太い親竹をのこして間伐を行います。このとき、ただ竹を切ればよいというものではなく、古いものから優先的に間伐します。



- 竹の年齢の見分け方**
- 1年目 : 地際に皮が残っている
  - 1~2年目 : 稈に産毛が生えているように白く見える
  - 3年目~ : 節が茶色くなってくる
- 3年目以降の竹を間伐します**



#### タケノコ掘り

間伐により、根が充実してくると、春には間伐した後に新芽となるタケノコが盛んにでてきます。タケノコの中から、親竹の候補を残し、残ったタケノコを採取します。

間伐やタケノコ掘りなどの管理を経て、竹林が健全に更新されていきます。

出典：横浜市森づくりガイドライン



竹が健全なのは発生してから5年程度なので、毎年竹の本数の1/5程度の数のたけのこを親竹に仕立てます。親竹に仕立てる竹は、3年目程度の地下茎から発生するのが好適で、これを発生したたけのこの先端部の開き具合から判断します。

## 先人の知恵から学ぶ

### 発生材の活用方法

適切な密度に竹林を維持するためには、定期的に古い竹を除いていくことが必要です。

管理により発生した竹、発生材を林内に積み置きされているケースも多いかと思えます。

ここでは、昔ながらの活用事例について研修報告を交えてご紹介します。

### ～間伐材マネジメント研修の報告～

日時：平成30年11月18日(日) 9:30~15:30  
場所：環境活動支援センター

横浜市で5代続く、柳田竹細工店を営む柳田氏を講師にお迎えし、参加者の皆さんに竹帚作りを体験していただきました。箒の柄はまっすぐで手になじむ太さの「真竹の稈」を、箒の穂は「孟宗竹の枝」を使用します。手作りの箒は、量販店で売っているものとは使い心地が格段に違います。

#### 竹材の事前準備



① 児童遊園地内の5、6年目の竹を間伐します



② 稈から枝を落とします。葉を落としやすくするため、枝に水をかけ、シートをかけて蒸らします。



③ 箒の穂の材料の完成

#### 1 枝を選別します



手作りの竹箒は、内側と外側の二重構造になっています。内側の芯になる部分と、外側の長い穂先に使う枝を選別します。

#### 2 内側を組み立て、外側に長い枝を巻きます



内側の組み立てで、竹箒のコシが決まります。職人手作りの治具でしっかり針金を占めます。内側ができたなら、箒の外側に長い枝を一周巻いていきます。針金で止める前は、花束のように穂先が広がっています。

#### 3 仕上げ



針金で止めると途端に竹箒らしくなります。最後に、穂先を切り揃えます。

#### 4 完成

講師が一人ひとり丁寧に説明をしてくださり、参加者全員が立派な竹箒を持ち帰ることができました。

